

北海道と本州の つながりを 遺物から紐解く

— 歴史を語る、物言わぬ「もの」たち —

入場無料・参加申込不要

講演①

「伊達市における 人類学の研究」

◎講師

百々 幸雄 氏

(伊達市噴火湾文化研究所 噴火湾文化専門委員)



1944 年栃木県生まれ。1969 年東北大学医学部卒業。札幌医科大学助手、国立科学博物館研究官、東北大学医学部助手、札幌医科大学助教授、教授を経て、1994 年より東北大学医学部教授。2008 年に定年退職し、現在は東北大学名誉教授。2015 年より伊達市噴火湾文化専門委員。専門は解剖学・形質人類学。(仙台市在住)

講演②

「伊達市に伝わる古文書 資料から読み解く幕末の 伊達家とその家臣」

◎講師

工藤 航平 氏

(東京都公文書館 専門員)



1976 年神奈川県生まれ。総合研究大学院大学日本歴史研究専攻修了。博士(文学)。国文学研究資料館機関研究員を経て、現職。NHK 大河ドラマ『龍馬伝』などの時代考証を担当。著書に『近世蔵書文化論—地域(知)の形成と社会—』(勉誠出版、2017 年)、『伊達政宗と時代劇メディア』(大石学・時代考証学会編、今野印刷、2016 年)など。巨理伊達家文書調査研究会として伊達家家中に伝わる古文書から、幕末期における武家の姿を明らかにする取り組みを行っている。(埼玉県桶川市在住)

<会場案内図>



平成 29 年 **11 月 23 日 木**
(勤労感謝の日)

14:30 ~ 17:00 (14:00 開場)

会場：東北大学百周年記念会館

川内萩ホール 会議室 (仙台市青葉区川内 40)

アクセス 地下鉄東西線「国際センター駅」より徒歩 5 分または「川内駅」より徒歩 7 分。
※駐車場の用意はございませんので、公共交通機関をご利用ください。



伊達市噴火湾文化研究所

北海道と本州のつながりを 遺物から紐解く

— 歴史を語る、物言わぬ「もの」たち —

講演概要

平成 29 年 **11月23日 木**
(勤労感謝の日)

14:30 ~ 17:00 (14:00 開場)

会場：東北大学百周年記念会館

川内萩ホール 会議室 (仙台市青葉区川内 40)

有珠モシリ遺跡の発掘

講師 百々 幸雄【とど ゆきお】(伊達市噴火湾文化研究所 噴火湾文化専門委員)



有珠 7 号

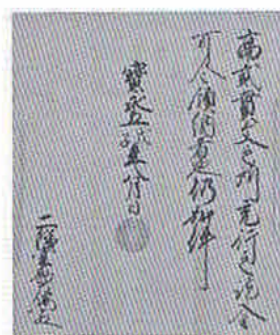
縄文人と北海道アイヌの骨格に多くの類似点があることは明治時代から知られていました。戦後になって多くの研究者が縄文人とアイヌの骨格を詳細に調査したところ両者の類縁関係は確実であり、縄文人はアイヌの祖先であるとみなされるようになりました。しかし縄文人とアイヌの間には 2000 年以上におよぶ時間的空白があります。そこで私たちは、縄文時代に続く続縄文時代の遺跡である伊達市有珠町にある有珠モシリ遺跡の発掘調査を行い、続縄文時代の人骨の収集に成功しました。これにより北海道アイヌは続縄文時代を遡って北海道の縄文時代人まで辿れることが明らかになりました。



有珠モシリ遺跡

北海道に伝わる東北地域の古文書はなにを語るのか

講師 工藤 航平【くどう こうへい】(東京都公文書館 専門員)



宝永 5 年
「伊達村成知行宛行状」
(二階堂家文書)

北海道には、近代以降の移住者によって持ち込まれた全国各地の古文書やモノ資料が、数多く伝えられています。これらの資料は、直接的には北海道の歴史や文化を語るものではありませんが、その特徴的な構成を読み解くことで北海道に所在する意義を見いだすことができます。そこで、北海道に所在する古文書の特徴を概観するとともに、伊達市に伝わる旧巨理伊達家臣の史料群の整理・調査を通じて発見した古文書の、モノとしての存在に注目することで、それが北海道の地域歴史資産でもあることを読み解きます。



巨理伊達家文書調査研究会と市民による
史料整理風景